

「タンガラ・ダ・セーハ養護学校通学用バス購入計画」 供与式



2006年3月29日、マト・グロッソ州タンガラ・ダ・セーハ市において、「タンガラ・ダ・セーハ養護学校通学用バス購入計画」の供与式が行われ、団体及び同市関係者等百数十人が出席しました。来賓挨拶に先立ち、まず施設児童による舞踊とカポエイラが披露されました。

チョケッタ・タンガラ・ダ・セーハ障害者を支える親と友の会(APAE)会長は挨拶の中で、本件が実現するに至った経緯を説明しつつ、日本政府・国民に対する謝意を表明しました。



ダヴォリ同市市長は、「日本は第二次世界第戦によって一度壊滅状態にもあったにもかかわらず、教育への投資と勤勉さによって今日の繁栄の基礎を築いた。他方、我がブラジルは明るく、創造性に富む国民性を持っているが、日本と比べると特に教育への投資が足りない」と述べ、本件協力を契機に日本をお手本として教育に力を入れるべきであることを出席者に訴えました。

西林万寿夫総領事は「日本政府の協力により、タンガラ・ダ・セーハ APAE の生徒の皆さんのお役に立てることを光栄に思う。暖かい歓迎を受け、遠路はるばる当地へ来て本当に良かった。」と挨拶しました。

バスは供与式に先立ち、1週間ほど前より既に使用されていたところ、児童たちは新しいバスによって通学が快適になったことが余程嬉しかったようで、西林総領事に対して握手や抱擁で感謝の意を表し、式典後には子供達の要請により写真撮影が延々と続きました。

写真(上)：養護学校通学用バス

写真(下)：車椅子乗降機を利用して車椅子利用者のバス乗降が楽になりました

(写真はタンガラ・ダ・セーハ APAE 提供)

上記案件のプロフィール

案件名：「タンガラ・ダ・セーハ養護学校通学用バス購入計画」

被供与団体：タンガラ・ダ・セーハ障害者を支える親と友の協会(APAE)

契約署名日：2005年10月26日

供与限度額：92,981米ドル



西林総領事とダヴォリ市長

案件概要：タンガラ・ダ・セーハ APAE は、1984年に設立された身体・知的障害者とその家族を支援する非営利団体で、現在186名が通園しています。同団体の所有する1993年製通学用バスは、内部がかなり傷んでいる上、シートベルト・昇降機・車椅子の固定場所などを備えておらず、安全上の問題が発生していました。また、タンガラ・ダ・セーハ市では、製造後12年以上を経過したバスの運行が認められていないため、2006年以降は運行が出来ない状況でした。このたび、我が国の無償資金協力により、安全性・利便性の高い通学用バスを購入することで、2006年以降も通学バス運行が続けられることになりました。



APAE 生のカポエイラ披露を楽しむ(右から)西林総領事、楠領事、チョコッタ APAE 会長
(写真はタンガラ・ダ・セーハ APAE 提供)